

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak  
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

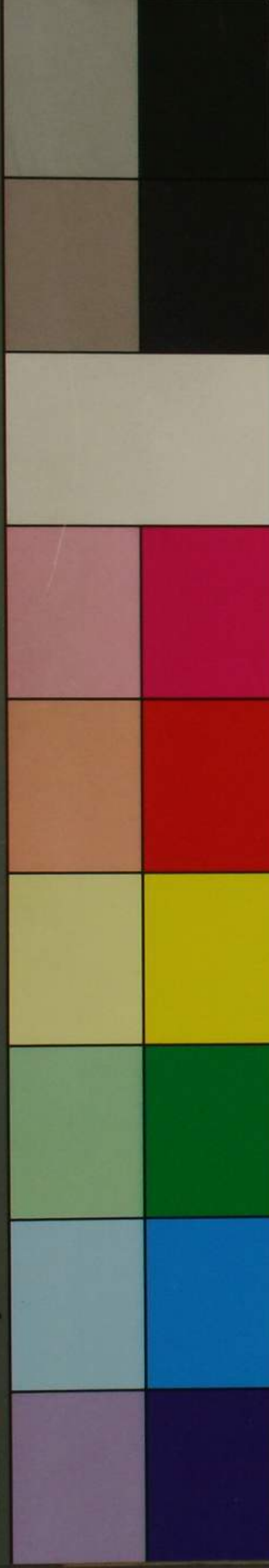
Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19

諸國  
回郭

傾城畸人傳

貳



0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

20

1

2

3





門 13  
番 1221  
卷 2

傾城畸人傳卷之二

敦賀の道芝盤を復して詔城原を治

有林小掬んてそ羽本の糸の如く魚の水に修んて  
其瀾波小水なりこれ自然の道理あがり人の生修小  
剛弱あらそあつてそ修不あよりて氣象をわつろ  
りの花越前の國敦賀の廓小道芝とつて掬女有り  
親ハ赤穴何糸そそ友ある武士の果をりし浪人  
乃身の貪しそふとるの娘を以里へ賣てそ後  
の程もわく世をさつてけりあふ小及芝ハ程さ  
よるそ又小絶て武術を学び帯小弓射るる城あり



飯いひをぬくぬりり城じやう子こずずとと志し多たれればば抱かか女にやととありりてて後のち  
 をを生なゆゆ小こ使し氣きををぬぬくくとと中ちゆうくく男おとこもも及およびびざるざる志し多たりり  
 後のち小こののささううををささるる時ときいい必かならずずのの強つよきき城じやう將しやうてて弱じやくたたままのの  
 義ぎ小こよりよりてていい命いのちををもも願ねがははふふにに位まゝにに流ながるる人ひとのの一ひと子こ小こ矢や  
 田いん源げん吾ごととのの子こ者もの乃すなはちち芝しば小こ一いち支し度どののよよししととありり一ひと也なりをを  
 ははりりをを言こと絶つくく後のち氏うぢ神かみ小こ後のちのの儀ぎ式しきああるる流なが近ちかづづよりより  
 衆しゆん請けい群ぐん集しゆををあありりいといと流ながかりかりけけはは源げん吾ごもも乃すなはちち  
 芝しば城じやう誘いざなひひくく糸いと請けい料理りやう亭てい小こ立たちちよりよりとと酒さけああどど酌しやく  
 ううららりり醉あひ小こ糸いとととゆゆるるささららるる路ぢをを不ふ々々惡にく小こ之これ口くち人ひとのの  
 惡にく女にやとと出で過かりり彼かの老らうとともも源げん吾ご小こ向むかううくくいいろろくく惡にく口くち

城じやう吐は後のち小こ性じやうつつきき短たん氣き惡にくのの源げん吾ごああままにに芝しば城じやう將しやうとと情じやうきき  
 奴やつ系けい乃すなはちち言ことううかかららりりよりより接あひ切き小こああままににくくれれんんとともも  
 刀やうのの柄へい小こ子こををかかくく流なが道ぢ芝しばかかくくとと乃すなはちちよりより中ちゆうにに抱かかづづとともも  
 之これ何なにととももややらら小こ惡にく少せうををりりをを宥なぐさめめ下した男おとこ小こ驚おどろけけ世よををささ  
 小こ源げん吾ご城じやう將しやうとと先まへ之これ後のち一ひととと相あひ相あひ手てをを乃すなはちち惡にく老らう小こ礼れいをを述のたまふふ  
 我わが客きやく人ひと酒さけのの搦な場ばあありり已まままあありりとと乃すなはちちよりより今いまのの仕し合あ  
 たりりをを一ひと小こののままをを穢けがししきき我わが儀ぎ言ことをを穿すさみみ入いれれるる事ことををささ  
 密ひそををつつかかたたくくぬぬせせしし後のちこれこれ小こあありりとと乃すなはちちよりより恨うらみみあありり志し多たりりばば  
 今いま有ありりかかののくく我わが流なが近ちかづづへへ招まね待まちつつとと乃すなはちちよりより無な酒さけ一ひと献けんままりりぬぬ  
 中ちゆうたたくくあありりとと乃すなはちちよりより若わか思しのの身みああままにに又またささへへ小こ不ふ任にんせせ後のち儀ぎ



程少あはれども我寸志たれど何と我は是を交收め  
 のあきつづきも快く一献酌てめらるべしと懐中より  
 金子二両をき出して与へけし不悪女とて道芝が  
 志を感し秘人ごろ小礼謝志とて去りぬ道芝は是  
 より家小ゆりて源吾を忍る小誓して先程ゆりて  
 上る酒の酔をよき覚さりてかむ今交先犯を悔し  
 芝が顔を見るより酒息吐くのみを方いして二支交  
 の別添して左程ふり申すもあはれざる小今日難儀乃  
 坊を小誓て救ひられしは千両金ありと交一歩  
 是と乃其ハ一言の答もせしは乃武士道を公ふかき

のり方る小もりて物の毎へるべきもあはれ  
 我家小事りる小あたとて子回来りる小とも我考てす  
 ゆるるし守今日の舉動武士の身のあるやど此次  
 ちとばや故あきき妻女被連と諸人群集の中を徘徊  
 柳ちる鬨傷の坊小除んとい匹士の雑言を忍ぶるあ  
 ちとば身被忘さく刀小血ぬんとせし何事をお  
 い多勢の悪事をもて面解小磔疵をうけたるゆ  
 志死取を祝見申小及がは不孝不義の悪世者候と  
 交被去る魚とて伺尖く辱めて追出たは女小掃  
 たる使氣ありと世の人称羨志とけるは此同屋安宅







何奈の二子孝次良といふ者及芝小別傑てより登  
 夜より廊下入り一が支那を初め家門の者の  
 笑をたむらひ病氣の爲出立生するとして花街  
 近より侍へ産家をからとくそこ小住居一夜毎小及  
 芝が許へ往く途不及芝も渠が微弱あがらなれつれ  
 温菜よまきくもの小拘つるをきし時たは酒肴を  
 総りまわら行くと庖厨で調へ又いらぬあるおの渠が  
 亦よいつて宿し情の熱さよの昔此抱女といふからり  
 くと深切たを孝次良一國小及芝を娶て妻とす  
 とおひこみ常小公の座を及芝小諸る及芝寛尔と

笑ひく我若果小説てよりこのかた回城送り新を  
 運へ斤時の夫婦とあまら一人衆許をやれこの國小名  
 ある人我肌ふまぬい中とまもたし志るまは商人の妻  
 とくもと飛くお小説武家の室とあまらば生先  
 ある侍方残さづらむる妻ありは事をも再びいひ  
 知しぬふあされむとて出後四身小對して疎くある  
 小もあらはといひ身を送良のふへ一向とり散を  
 及芝常小抱女の終りハ説を隠すをひききと  
 世里及芝とやうん今誰が妻とたりと彼面妻と  
 人抱と承派とらあまらまらとらとら小後とて



子あり孫有り膝の下より祖母と称せり其人も  
 うとゆしく又奈その身を志を切らざる備組む  
 際小なるも人より見ゆるよりいれ来あくぬらつ  
 分本言なるといり愛小又宮控孫次とて生  
 得殘忍うして性小二字ハ名譽とも憐愍の二字と  
 知くは控威小するせり我意を行ひ國中小控  
 せらあしと人よりと意と及芝が養色成也一とく  
 柔生より廊中小往來をあり渠を賤ひく婢妾小  
 なるさんと欲されども及芝も吾道成悟りてゆき文  
 ひくは控孫次渠が愛の是ざるハ孝行良とお惚する

ゆへたりとては二人が中を満人と彼孝次良が位り  
 産家の家主大六をかきひ及芝を授けて通ふと死  
 大六途中小待伏志く及芝を抱きとめ理不盡の行  
 誦をたし是れも情小飲んといふ道芝公の裡も  
 怒るといふもは本孝次良が病いとも悪なるより  
 若越たまは一寸の遅あやん事を急せ候小大六を  
 きて今宵ハ公小障るるあまは従ひ難し近きうら  
 かなしは一夜の寝り成結むんと受けまは六こそ成  
 めて成を揺その方よりりて空を遁せんとそれども  
 たやうの荒唐こそ成穿入きり期を延まづは男小



あつた實小我とある心あつた批言幼の證をととり至  
 屋一その子及芝まれつち纏綿細小蝶等の備との  
 志する纏綿を脱である一小舟一渠をまらして稍幸  
 次良が宅へ廻さしつ又上る宮控孫次は此纏綿  
 成大六が手よる地々度かここのいひ纏一幸次良を  
 けろ一む幸次良も及芝もこれ皆控孫次が不為あり  
 め成知り二人が中の笑ひ程とまき些も愧とせは言  
 宮はいふく及芝小意慕の思ひやむ時をく一向幸次良  
 成矢人とはさ志つひ小あり及芝又これをもさる  
 我身言宮小遠ぶるとん計略のまかりける或は

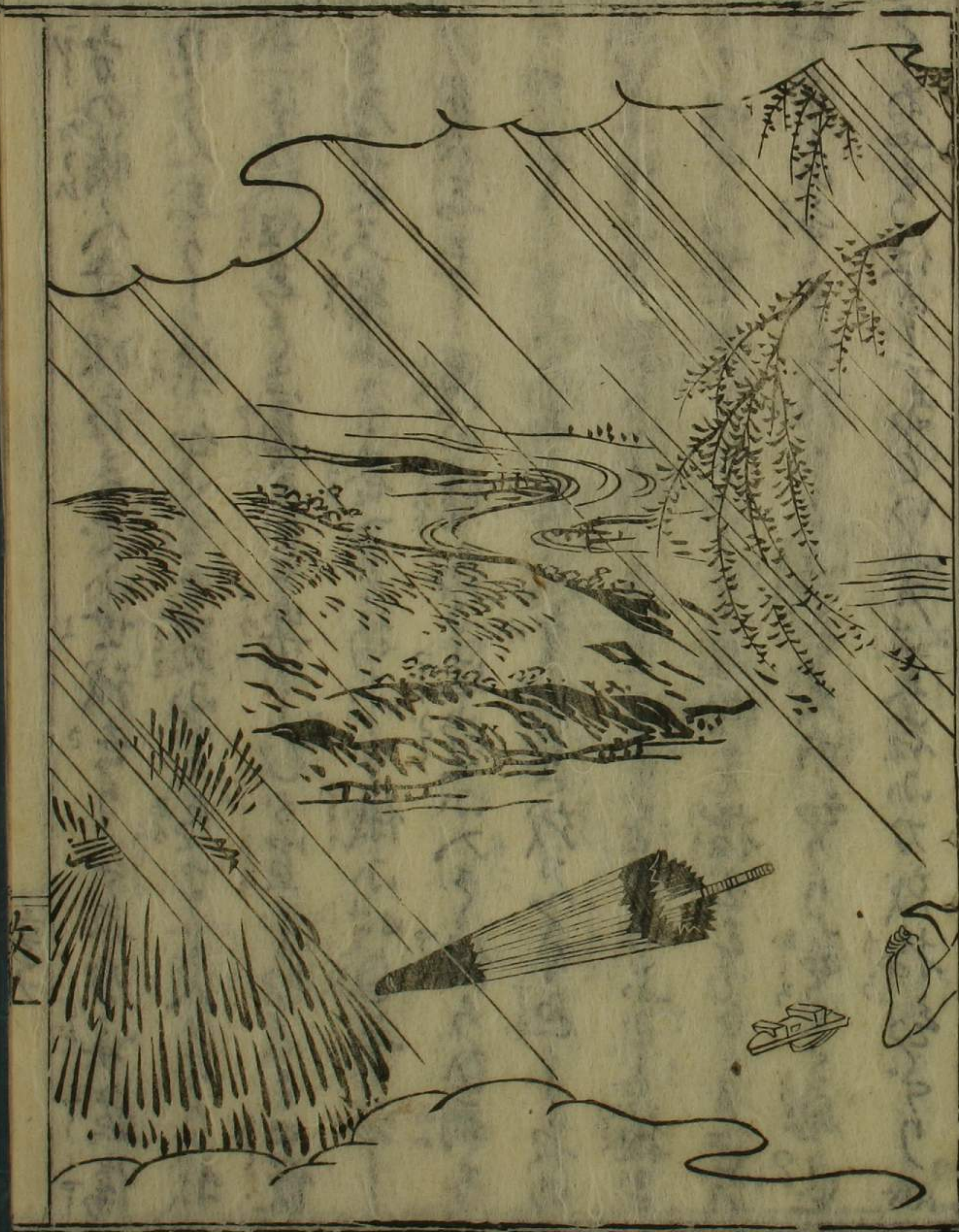
及芝が方へ幸次良来るべき約束ありたから曉小及  
 どもと来るさむ及芝いと氣づろくく明を遅一  
 と彼家小行つてんを善残や幸次良の大伽裂小お  
 放さし血小滌て死とりけるもやくも渠が支那家族  
 笑つて来るりて官府小訴へ死骸を擧ぐかりぬ詮  
 が仕業とも知る人たけしと及芝が心中よこれ言  
 宮が不為たると成知るが放小比真のまらして起を深く  
 悔へ憤怒の氣を吞りぬりけるもお夕月のあがり  
 ともや西小傾きや曇りて星影さ々暗小怪一人小素  
 たうかけく不敵ゆも言宮が来る道筋小約け



萬子幸次良方新考重一乃成推所へ赤き段中  
若くを夫とんるよる宮の主ふあらばやと問ひ  
たひの及芝敷といふ夢持孫次小紡をたけしを  
手むちく脇腹とちりさ雨を扱ふをういつけいふ  
その宮の扱あはを際もたなく右の脇よりすす小切上  
ら甚志げ一は立しよんく一が斬く別きて高腰を  
たよりぬ及芝敷死骸小むらきし淋雲あらばよくこけ  
我一生人小身をゆき一なるゆきさうさむば父の仇と報  
ふよもあらば余はよんてとすむべきちるまど我ゆ  
小命城う一あの一ゆを知りたがうまらばあふを

ちる人の我を小ふく取ふありと刀を押し拭いて懐  
小かく一又家主大六が方城き一と強行門の戸城  
おとく叩き小夢よき大六が名をいひ叫出せり大六  
門小出及芝敷をんき今も降来んるのけ一死あふ  
いつくへり行やといふ及芝敷一そそ骨容を繕りて  
来りしが寝よるを我ひとり悔ちるまどあふこれば  
おくの大吼つまき道の程怒ろ一近江やうのこま  
と廓まき我を送りぬるヤドやといひけむ大六  
心の程小先の扱の約束を忘れぬこれ存ひのゆあり  
とたふかくまがひき及芝敷送りゆく道まがうき







方の情人幸次らむをて小世哉去りこれぞ嗚然傷  
 かりん志りし染初と望が男の色をみやと今より我  
 小一生哉但志く富貴を樂しむが宜しかんと口説  
 を及芝三葉ふく答へぞ折ふし俄小時面あり出  
 け身志をく道の傍ある辻堂小入る休らひ雨を  
 せめたりしが大六あさり人衆あき哉んく色しおの  
 約束いふと戯れより道芝が手ををりふくし抱き  
 つく時不及芝あしく海をるを双物を扱出を手もんせだ  
 おどりのるうちひくと鳴き大六むり驚き飛退  
 ころわやち仕のふあといふ及芝右小刀裁持むざり心

大六が警成秘んで初きは你無道の言宮小祖志くま  
 絆の意慕をいひうけ種々の狼藉をちりし我を  
 従へんとし我をこそし是哉忍ふあしゆとあふ子  
 細あはれまこと詞を残し志く宥めをくり抱女あて  
 け我あはれはあはれも匹父野人の軽言小惑哉とりく  
 牙城汚をく我よあはれ志く今汝不同ふり何り  
 奪ひたどののおあさる官が手小からるく教はあひし  
 始終を汝志くさるるあさる詭なく明白小りさる  
 教さん志くくさるる今あがり教小せんといふ眼血しり  
 くれしるる思髪をさるるふさるる宛も鬼女の如く



乃之けき大六殆悪生銭あり殺せし人已小控藤次と  
知事しるし一ははるや突小やさんお茶控藤次其等の  
比より事ありて口つくるやてもゆへに漸夜半のころ裏  
口へ出るるとんや一がその後路巾着より面俵をかくし堀  
越切抜てひそく小使を殺すやび入盗賊の俵小を  
たし一奪次はら沖めを窺ひ討果たすを返り我  
もこれ銭知るといふとも些も我に為小係らば及芝  
かたぬく你が家小能言人を引込る分野を窺ひせ  
傍家の住人を殺害小及びし候今日小いづるやそ  
る府へも訴へ出さ尚你小殺るるや一とあや大六着

あつ小詞たう峰はる秘使小とくかあは外揚あ  
ちりやいふ及芝怒る汝既小突越吐再ひ你小はる  
あしといふ下よる皇向ふ伽列小手の程滞らば変たつ  
るもあつべこ我公静小とめを刺し花ぶがごとく小  
遁去ししがそ行小越去るは扱めをふまきとる宮と  
大六が殺されし銭吟味あつとる夜及芝が約束あ  
くたるも一は渠が亦為小やと殺あつこは越退りむむ  
とも何地ゆきけん殺さるも足つはそ家を詮養あて  
渠が約束を授しんる小生よりをこ一の物を  
狩へぬは只和漢の兵馬弓箭長刀の類より外物も



わくこれ小依く及芝が使だての使へ中へく著生  
捲女も珠く志死人物たりと多法教都遠近は治  
柄とたりふたり

評さうく龍泥中小蟠と蛇の蛇を肆蛇ある  
蛇いづくんぞ龍の志を志くんや及芝のやや武志の  
娘たまは性つ蛇使氣小志く志くも智能ある哉  
常小志く實へ傭の花魁との志く至既心源吾が悪  
提者の報言哉蛇を其分哉志くく女郎への外  
飾はくくそ厲辭哉いひ並く野々密の元項中幸  
次郎ハ侍小合ぬ柔弱至極の男あり早意及芝

が弱を助る女公あまはく我は深く契素くれさきとも  
渠が妻小せんとい一の家の家の瑕瑾とたをんり  
裁折をあく止さたる確言ハ河豚汁と團魚小  
咽あると幸甲の無眉及ふ所は彼控藤次少  
本頭が女計志く令哉失ひハ朋輩悟氣する族  
のう紀いすしめそり情人の警言を付く乎快みさひ  
大槩女郎が欠落せハ泣の泣家小残る物ハ鏡を屋と  
子鏡高券のそあくんふ及芝が遺物ハ唯武具と兵  
書の貯小日見の見織物きりたると雲雲小鏡を  
くくすれとも翹楚の名へ未代小輝ぬくん



